

Emergency Watch



神戸こども初期急病センター



2013年6月受診者数：2052人

訴え

- | | |
|-------|----------------|
| 1. 発熱 | : 1237人 (958人) |
| 2. 咳 | : 682人 (146人) |
| 3. 鼻汁 | : 472人 (11人) |
| 4. 嘔吐 | : 383人 (139人) |
| 5. 発疹 | : 313人 (237人) |

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

疾患頻度

- | | |
|------------------|--------|
| 1. 急性上気道炎・咽頭炎 | : 747人 |
| 2. 感染性胃腸炎 | : 296人 |
| 3. 気管支喘息・喘息性気管支炎 | : 153人 |
| 4. じんま疹 | : 117人 |
| 5. クループ | : 81人 |

今月のワンポイント！

今年は梅雨の間も雨の日が少なく暑い日が続きました。6月の神戸こども初期急病センターへの受診患者さんの数は、5月に比べ1000人ほど減少し2052人でした。感染症になる子ども達が全体的に減ったようです。疾患別頻度としては、上位3つが4月、5月と同様で、急性上気道炎・咽頭炎が最も多く、次いで感染性胃腸炎、気管支喘息・喘息性気管支炎の順でした。

今回は細菌性腸炎についてお話をしたいと思います。例年、夏になると食品の衛生状態が悪くなりやすく、大人と違って免疫力が弱い子どもたちは食中毒として細菌性腸炎をよく起こします。保護者の方に注意していただかないと、何回もいろいろな細菌性腸炎を起こしてしまうお子さんがいらっしゃいます。

細菌性腸炎の症状ですが、熱が出たり、腹痛、おう吐や下痢が見られます。血便を見ることも多く、ときに重症になり、まれですが脳炎を起こして後遺症を残す場合や致死的な場合もあります。カンピロバクターやサルモネラ、病原性大腸菌(0157など)、腸炎ビブリオ、エルシニアなどの細菌が原因で起こります。カンピロバクター腸炎は汚染された鶏肉、サルモネラ腸炎は汚染された肉や卵、あるいはミドリガメなどのペット、病原性大腸菌は汚染された牛肉が感染源になります。

バーベキューなどの際は、食べる直前まできちんと食材を保冷することが大切です。さらに肉や卵はしっかり加熱してから食べるようにしてください。生肉、とくに鶏肉を調理した包丁やまな板をそのまま使って野菜を切ったりしないでください。熱湯をかけ洗剤で洗ってから使用するのが良いでしょう。食事前の手洗いも大切です。

それでは細菌性腸炎に関する正しい知識と予防方法を身につけて、元気に楽しく夏を過ごしてください。

